

京大の2実験所

古座川を水質調査

「清流古座川」を取り戻す会協力

京大瀬戸臨海実験所(白山義久所長)と京大紀伊大島実験所(梅本信也所長)、「清流古座川」を取り戻す会(水上誠会長代理)が古座川の現状を知るため、協力して古座川の水質調査を行っている。

ンバーらが、古座川の河口やダム、上流など9カ所で1月半ばから毎週日曜日の夕方などに行っている。1年間続ける予定。場所、日付、時刻を書いた容器(500ミリリットル)いっぱいに取り、直射日光の当たらない場所で保管。1カ月ごとに容器を

白浜町の京大瀬戸臨海実験所に送り、同大学院理学研究科1年の柴田敏治さんが中心になり、窒素やリンの濃度、水に浮かんでいる粒子の量やその元素組成などさまざまな項目を分析している。京大フィールド科学教育研究センター(京都府)

の森、里(川)、海の自然や文化のつながりを研究(森里海連環学)する一環。同学は昨年、同センターでスタートした。古座川はモデル地域の一つで、長さが適当なことや、上流にダムがある本流とダムがない支流小川が一緒になる川で、複雑なデータを取ることができることなどから選ばれた。

白山所長は「川と海のつながり、海の環境にどう影響を与えるかを見ていきたい」、梅本所長は「古座川は汚れてきていると言われているが、復



古座川河口付近で採水する「清流古座川」を取り戻す会の大石久美さん(30日、古座川町高池で)

元可能な程度なので興味深い」。

古座川漁協の事務局、大石久美さんは相瀬地区

で日曜日に採水するほか、気付いた時に河口付近で採水している。昔から古座川を見ているが、

水が汚くなると実感している。採水の時も沈殿した泥が舞い上がる」と話している。

分析データは5月には取り戻す会に報告される予定。